

令和3年度実践事例報告書

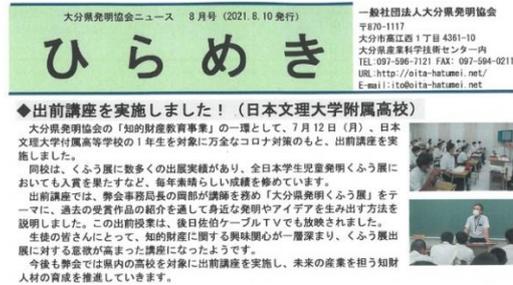
学校番号	情 01	学校名	日本文理大学附属高等学校		担当教員名	安東 慎一郎
ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制					
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) その他 ()					
年間の取組内容		実施時期	該当する要素の番号		知財学習の要素	
①弁理士オンライン授業		06	(6) (7) (9) (11) (12) (13)	1. 創造 創造し表現 する体験	レ	(1)創造性を鍛える
②発明協会出前授業		07	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (13)		レ	(2)情報を利用する能力
③知財授業実施、定期考査		05-07	(1) (2) (3) (4) (6) (7) (9) (11) (12) (13)		レ	(3)発想・技術を表現する能力
④パテントコンテスト等応募 パテント1、デザイン2、発明 くふう展5 (入選1)		08-11	(1) (2) (3) (4)		レ	(4)観察力を鍛える
⑤発明クラブ活動コンテスト 応募等		05-11	(1) (2) (3) (4)		レ	(5)技術を体系的に把握する能力
⑥小学生対象工作ワークショ ップ		11		2. 保護 財産として 保護・尊重 する意識	レ	(6)商品や社会とのつながりの理解
⑦文化祭作品等展示		11			レ	(7)保護・尊重する意識
⑧					レ	(8)技術等と権利の対応関係を把握 する能力
⑨					レ	(9)手続の理解
⑩				3. 活用 社会で活用 する知恵と 行動力		(10)権利を活用する能力
⑪					レ	(11)産業や経済との関係性の理解
⑫				4. 知識 社会制度の 理解	レ	(12)制度の学習
⑬					レ	(13)専門家、資格制度の関する知識
令和3年度末にお ける取組目標 の達成見込	A	ほぼ達成(9割以上)	判 断 理 由	知財教育は概ね実施した。コンテスト応募の意欲は高まった。 コンテストへの応募や成果が不十分であった。		
	B	概ね達成(7割以上)				
	C	やや不十分(5割以上)				
	D	あまり達成できていない (5割未満)				
実施方法	<input type="checkbox"/> 全校で実施 <input checked="" type="checkbox"/> 教科・学科で実施 <input type="checkbox"/> 特別活動で実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他(発明クラブ)					
本取組の状況 (なるべく具体的な 数値やコロナ禍で の取組等を含め て記載をお願いします)	弁理士や県発明協会による出前授業により生徒の知財に対する学習意欲を高めた。 授業を通じて知財の簡単な創造、保護、活用について学習した。 授業課題や発明クラブによりコンテストに応募した。パテント1、デザイン2、発明くふう展5(入選1) コンテスト応募数、内容向上、成果を上げることが出来なかった。 小学生対象、工作ワークショップを行い創造の楽しさを伝えた。					
最も重 視した 取組又 は成果 のあつ た取組 等	成果 内容	パテントコンテスト等に応募しようとする意識が高まり、夏休課題「知的創造」で様々なアイデアが提出された。 しかし応募できるものが少なかった。				
	生徒・ 学生に 見られ た変化	パテントコンテスト等に応募への意識が高まった。(生徒感想文)				
	取組番号 [2]	その 根拠	生徒感想、夏休課題「知的創造」で様々なアイデアが提出された。			

今後の課題	継続してパテントコンテストに取り組む。
課題への対応	課題発見解決能力を高める。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



20210604 弁理士パテコン出前授業



20210712 発明協会出前授業（発明協会広報資料）



20211024 県発明くふう展入選（奨励賞）



20211127 工作ワークショップ

外部講師による指導

外部講師による授業は生徒にとって新鮮である。
 弁理士や発明協会による出前授業で生徒は刺激を受け、知財学習への意識を高めることができた。（生徒感想文）
 その意欲を継続して高め、コンテスト応募等に結び付けたい。
 そのためには課題発見力や解決力、表現力の向上が必要である。

